



1月にパリで開催されたインタビュー  
ア見本市「メゾン・エ・オブジェ」  
でひととき注目を集めていたデザイナー  
ナーといえば、この人、ハイメ・ア  
ジョンをおいてほかにいない。なん  
と3つの新コレクションを一気に発  
表したのである。

このスペイン出身のデザイナー、  
2006年にスペインで50年余りの  
歴史を持つボーセリンアートブラン  
ド、リヤドロのアート・ディレクタ  
ーに就任。最初に発表した「リ・デ  
コ」コレクションは、これまで穏や  
かでおとなしいイメージだったリヤ  
ドロの世界を一気にモダンなスタイ

# JAI ME Hayón

ハイメ・アジョン

デコラティブに美しく！  
期待の新作がお目見え

ルに変え、一躍時代の寵児となった。  
今回の「メゾン・エ・オブジェ」  
で発表されたコレクションの前に彼  
は、「デコラティブな磁器の世界で、  
デザイナー的に進化したりヤドロを見  
せたいんだ。伝統とデザインを融合  
させることで、機能的なものなかに  
機能的ではない要素を盛り込みた  
い」とその意気込みを語ってくれた。  
「今回、「ケバブ・ランプ」で一躍有  
名になったロンドン出身のデザイン  
デュオ、コミッティーに、リヤドロ  
に面白いものをデザインしてみ  
て、お願したんだ。それが「リサ  
イクロスⅢ」というプロジェクト。

彼らのデザイン力とリヤドロのハイ  
クオリティがどう「料理」されるの  
か見てみたかったんだ」

また、ハイメ自身がデザインに携  
わったプロジェクト「ナチュラファ  
ンタスティック」も見逃せない。自  
然とファンタジーをテーマに、これ  
までのリヤドロ史上にはなかった全  
く新しいデザインを提案している。  
「一方ではシンプルなもの、他方  
ではデコラティブなものを作って  
みたい。リヤドロの装飾的な魅力を  
引き出したいね。このブランドのホ  
ムデコレーションの部分に新しい  
「道」を切り開きたいんだ」

その言葉のとおり、「ナチュラフ  
アンタスティック」コレクションか  
らは口の部分にいくつもの花が咲き  
誇る装飾的な花瓶や、ランプ、キャ  
ンドルホルダーなど、個性的なデザ  
インが並んでいる。この「リサイク  
ロスⅢ」と「ナチュラファンタステ  
ィック」をハイライトに、とどめは  
ボードー・スベリンによる新作テー  
ブルアクセサリー「アスコット」と  
個性豊かなコレクションが並ぶ。

「僕の考える作戦は、まるでプール  
のようなんだ。いろんなコースがあ  
って、いろんな選手が泳いでいる。

それはつまり一つの会社がさまざま  
なプロジェクトを持つことで、リヤ  
ドロにとって新しい道を作ればい  
いなと思っているんだ」

思い返せば2006年。ミラノ・  
サローネ期間中、ミラノ市内で  
「INTERNI」誌の別冊が配布され  
ていた。その時、整然と注目デザイ  
ナーやインテリアメーカーの新作が  
紹介されるなか、ピンクの着ぐるみ  
を着たお茶目なポットプレートで登  
場するデザイナーがいた。デザイナーは  
こうでなくては、という固定観念を  
いともあっさり壊してしまうユー  
モアを、自分のポットプレートにま  
持ち込んでしまった人物。それこそ、  
今、カメラの前で優しく微笑むハイ  
メ・アジョンだったのだ。

フィリップ・スタルク、ロン・ア  
ラッドなど、日本でも人気のデザイ  
ナーは数多いが、彼ほど親しみや  
すいデザイナーはそういない。彼に  
一度会ったことのある人は、誰とも  
なく「ハイメさん、ハイメさん」と  
彼のことを親しみと愛情を込めて呼  
ぶようになる。

巧みなデザインプランと親しみや  
すいで人柄で、これからますます  
目が離せないデザイナーである。

PROFILE

1974年、スペインのマドリッドで生まれる。ペネトンのリサーチ・コミュニケーションセンター「ファブリカ」でヘッド・デザイナーを務めた後、独立。2006年よりスペインのボーセリンアートブランドのリヤドロのアート・ディレクターに就任。このほかカンパールなどさまざまな企業とのコラボレーションを手がける。



「NATUROFANTASTIC」  
日本での入荷時期、価格は未定  
リヤドロ